

教文部学習会

「伝統を継いで気づいた幸せ」

～和菓子作り体験～



7月31日（木）は嶺南会場で、8月1日（金）は嶺北会場で、教文部学習会が行われました。

今回はこれまでとは趣向を変えて、講演と体験を組み合わせた内容でした。石川県在住の和菓子職人の行松宏展さんから、和菓子は「五感の総合芸術」であり、日本人としての繊細な感覚と「想い」がこめられていることを学びました。

また、お弟子さんである「浜ちゃん」との出会いや和菓子体験教室の様子をユーモアを混じえて話してくださいました。そして参加者が何より心を打たれたのは、東日本大震災の被災地へ16回も赴き、和菓子とお茶を提供された時のお話です。心に大きな傷を負った方々に、和菓子を通して「想い」を伝えることで、気付くことができた「幸せ」。心にしみました。

後半は、「わたしはあなたを愛しています。」の「想い」をこめて「寒椿」の和菓子を作りました。ほんの少しの手加減で表情が変わってくるので、取り組む姿は真剣そのものでした。しかし、お土産もできて、学習会は笑顔いっぱい終わることができました。

○職人としての話、人生観、被災地での活動など、多面的な話題で楽しかったです。それぞれが「心」という一点でつながっていてとても感銘を受けました。

○「一生懸命は伝染する」という言葉で、子どもたちにも一生懸命に接しようと、改めて思いました。「想い」というお菓子を作り、東北に行かなければ、という気持ちになりました。

参加者感想

○和菓子を通して、人としてのあり方、生き方を考えさせられました。子どもたちや職場の人に支えられている幸せを感じることができました。

○和菓子作り体験は初めてで、貴重な時間を過ごすことができました。和菓子を見る目が変わりました。上手にはできなかったけれど、家庭での会話と試食が楽しみです。